

1098年： シトー会はベネディクト会の改革運動として成立しました。修道院の生活は集中的なミサ、開拓の労働、呵責のない禁欲、厳格な沈黙戒、肉欲と暖房（「暖めた小部屋」一室を除いて）の放棄から成り立っていました。クレルヴオーのベルナルがシトー会を中世最盛期の最も有力な修道会に発展させ、修道士とその配下に置かれた信者修道士の急増は宗教的な大衆運動の典型的な表れでした。

1115年頃 聖アウグスチノ修道会律修司祭が初めて、続いてベネディクト会（1131年）が今日の修道院敷地に定住しました。

1136年2月13日 クレルヴオーのシトー会士13人が入居、聖ベルナルドゥスにより創立。

12～13世紀 厳格なシトー会の生活規律の最盛期。修道院の全居住者は最低150人の修道士と最大その3倍の信者修道士で構成されていました。

13～16世紀 社会的宗教的変革が経済構造を変え、領地を賃貸、修道士は司牧及び学問の仕事に一段と多く携わり、厳格な禁欲主義は後退、（ワイン）農園経営が著しく増大しました。

1525年 農民戦争で「大樽」（71000リットル以上）を空にし、略奪。

1631年～1635年 修道士は30年戦争でスウェーデンとヘッセン軍から逃亡、略奪、修道院の蔵書破棄/オックスフォードとロンドンへ持ち去る。

18世紀 経済の全盛期、およそ30～40人の修道士が修道院の広大な領地に居住。

1803年 侯爵フリートリヒ・アウグスト・フォン・ナッサウ・ウージンゲンにより修道院を廃止（世俗化）、ワイン農園の創立。

19世紀 修道院施設の一部が数十年間「教護院」（監獄）、「精神病院」、1912年から軍隊の療養所となりました。

1866年 プロイセン王国によるナッサウ大公領の併合、修道院施設はプロイセンの管理下に置かれ、ワイン醸造の伝統を継続。

1926年～1939年 根本的な修復と美術史的に重要な部屋の復元修復。

1946年 修道院はヘッセン州の所有となり、ヘッセン州立ブドウ園が管理。

1986年 歴史的な建築物保存のため総再建の開始、時代にあった利用コンセプトの開発

1998年 修道院施設を財団法人エーバーバッハ修道院の名称で公益目的の財団法人の所有に移行。財団法人の任務：修道院を一般に公開し、適度適切な使用と持続的な経営により施設を永続的に保存。財団法人エーバーバッハ修道院は全施設の経営及び維持費を全て負担し、その目的で行われる寄付は税金を控除できます。

2011年 シトー会入居875周年（1136年2月13日）及び修道院教会聖別825周年（1186年5月23日）

ガイド案内オファー

修道院ガイド \*  
グループ参観  
一人€ 6.50、10人から  
案内人一人につき最高30人まで  
複数グループでの見学可

ガイド謝礼を加算  
案内人一人につき € 65、外国語

テーマ別案内 \*  
この案内は一部英語でも提供しています。見学時間は約1時間半。  
テーマ：修道院長、貴族、大司教 ・シトー会とその書籍 ・シトー会と水 ・エーバーバッハ修道院の変遷 ・エーバーバッハ修道院の庭園 ・修道院の周辺 ・エーバーバッハ修道院の経営

夜の催し \*  
1グループにつき € 10 案内人謝礼の加算  
催しの下記の始まり時間に有効  
ーメインシーズンは20時以降  
（4月～10月）  
ーシーズン外は19時以降  
（11月～3月）

ワイン見学 \*\*  
シトー会のワイン文化とヨーロッパの修道院建築の最も印象深い記念物を体験できる魅力的な結びつきはこのワイン見学に類なく忘れがたい雰囲気を作ってくれます。修道院内の案内、ヘッセン州立ブドウ園エーバーバッハ修道院産ワインの試飲、グループへの提供と案内料金1グループにつき55ユーロ（プラス下記の参加費/一人）

下記のワイン案内を選べます \*\*  
・エーバーバッハ・リースリングの試飲 一人13.50ユーロ（10人以上）  
・ブルゴーニュ試飲 一人16ユーロ（10人以上）  
・ホスピタル試飲 一人18.50ユーロ（10人以上）  
・シュレンダー試飲 一人20.50ユーロ（10人以上）

グループ行事として 15人から、 一人8.50ユーロ

\* この見学のご予約は  
Touristinfo & Kulturamt (TIK), Magistrat der Stadt Eltville,  
Rheingauer Straße 28, D-65343 Eltville am Rhein  
Tel. +49 (0) 6123 9098-0 · Fax +49 (0) 6123 9098-90  
E-Mail: fuehrungen@eltville.de

\*\* この見学のご予約は  
Buchungsservice der Stiftung Kloster Eberbach · D-65346 Eltville im Rheingau  
Tel. +49 (0) 6723 9178-100 · Fax +49 (0) 6723 9178-278  
E-Mail: veranstaltungen@kloster-eberbach.de  
Offene-Weinproben & Kartenvorverkauf:  
Tel. +49 (0) 6723 9178-115 · Fax +49 (0) 6723 9178-105  
E-Mail: klosterkasse@kloster-eberbach.de

大人 € 7,50  
グループ（10人以上） € 6,50  
割引 € 5,00  
（12～18歳の青少年、学生及び証明書を持つ身体障害者）

見学の定期案内参加費、入場料込みで € 10,00（割引 € 8,00）  
オープンテーマ別見学案内参加費、入場料込みで € 12,00（割引€ 10,00）

見学案内の集合場所は修道院の入場券売り場

注意 申し訳ございませんが全ての部屋が障害物フリーにはなっておりません。見学案内に参加される場合には全ての部屋に入れるよう手配いたします。身体障害者の方は予約時にその旨を申し出てください。

ご来場ありがとうございます！  
ご意見やご提案があれば躊躇なくお知らせ下さい。

Februar 2014年1月現在



ラインガウのエーバーバッハの旧シトー会  
修道院へようこそ

<p><span>修道院</span>院巡回</p> <p>ご訪問の皆様、エーバーバッハ修道院ご愛好の皆様</p>
<p>今お入りになるこの施設に現在は修道院の生活はありませんが、それでも現在まで典型的に全ての建築がシトー会修道院の理想の施設としてほぼ完全に維持されている例と言え、この観点からドイツでも唯一に近いものです。エーバーバッハにはかつては修士専用であった僧房とホスピタルと共に信徒修士受け入れのための助修士館、その周辺の農舎と修道院を囲む城壁が残っています。特に12から14世紀に造られたこの印象的な建築物により、エーバーバッハ修道院はヘッセン州の中世建築芸術の最も重要な記念物の一つであり、ヨーロッパのシトー会建築様式の重要な記念碑なのです。</p> <p>ロマネスク、ゴシック、部分的にバロック時代を特徴付けるこの建築エポックがエーバーバッハに大きな表現力を持つ素晴らしいアンサンブルを作り出しています。この修道院めぐりでは回廊庭園と回廊を囲む僧房と信徒修士の食堂などほとんどの部屋をご案内します。</p>

<p>示唆に富み、そして印象深いご滞在をお楽しみ下さい。</p>
<p>1 I 入りロー修道院チケット売り場</p>
<p>2 I 回廊と回廊庭園</p>
<p>3 I 書庫の建物</p> <p>この建物は1480年頃に充実した修道院の「大文庫」と「小文庫」を納めるために西の回廊の境界壁の中央に造られた。建物の北側の部分には現在修道院博物館の一部が入っている。南側の「文庫ホール」（見学不可）は現在講演会や会議の部屋として使われている。</p>
<p>4 I 1階  章ホール</p> <p>1186年以前に建築。この時代のロマネスク様式の窓が付いた囲壁が残っている。内部は1350年頃に唯一本の中央柱に支えられた立派なゴシックの星型ヴォールトに改築。1500年ごろ蔓草模様の絵。このホールの名前はここで朗読された修道会会則が章に区分されていたことに由来する。</p>
<p>5 I 上階  修道視のドルミトリウム（就寝ホール）</p>

<p>6 I 上階  修道院博物館（修士のドルミトリウムから到達）</p>
<p>修道院史とシトー会のドキュメント。かつての修道院厨の上にあるロマネスク様式の暖房室には1180年頃のドイツ語圏で最古の現存するシトー会教会のガラス窓（グリザイコ）が展示されている。</p>
<p>7 I 修道院教会（バジリカ）</p>
<p>クラウドール（禁制域）の南翼全体を80mの修道院教会が占めている。建築は1145年頃から1160年頃までと1170年頃から1186年までの二つの期間。ロマネスクの3身廊と交差ヴォールトを持つ支柱バジリカ、東に翼廊と四角い内陣。14世紀前半に華麗な飾り格子窓を持つゴシック様式の祈祷室を南側に増築。豪華なバロックの設備は1803年の修道院廃止時に喪失。世俗化された教会ではたまにしかミサは行われない。現在は主にクラシックコンサートに使われている。その壮大な厳格さと質素さでバジリカは早期のシトー会の志操とその建築美術への転換の第一級の証左である。</p>
<p>墓標記念碑  バジリカと回廊内の多数の、全て修復された幾つかの墓標板は特に表現力豊かにその成立時代の人物像を提示している。</p>

<ul style="list-style-type: none"><li>伯爵エーバーハルト一世  フォン・カッツェンエルンボーゲン  1311年没（カタログ番号59)</li> <li>大聖堂カントル  エーバーハルト・フォン・シュタイン  1330年没（カタログ番号44)</li> <li>マインツの大司教二人の像を彫った石板付き天蓋墓（いわゆる高墓）右はゲルラッハ・フォン・ナッサウ  1371年没、左はアードルフ・フォン・ナッサウ  1311年没</li> <li>ヴィーガント・フォン・ヘインスペルク  1511年没（カタログ番号39)</li> <li>アダム及びマリア・フォン・アレンドルフ  1518年没（カタログ番号41)</li></ul>
<p>教会内陣にある大司教ゲルラッハ・フォン・ナッサウを葬った墓の今日の外観は1707年に縮小改造されたものである。アードルフの石板は改造時まで壁の前に立っていた墓碑にはめ込まれていないで、内陣の中央、霊廟の上にはめ込まれていた。教会の北側側廊には  一残っている限りー  年代順にエーバーバッハの修道院長の墓標板が修道院史の分かりやすいドキュメントとしてはめ込まれている。全部揃ったカタログ「エーバーバッハ修道院の墓碑」は入場券売り場で購入できる。</p>

<p>8 I 1階  章ホール</p> <p>1186年以前に建築。この時代のロマネスク様式の窓が付いた囲壁が残っている。内部は1350年頃に唯一本の中央柱に支えられた立派なゴシックの星型ヴォールトに改築。1500年ごろ蔓草模様の絵。このホールの名前はここで朗読された修道会会則が章に区分されていたことに由来する。</p>
<p>章ホールと教会の間にアルマリウム（中世の書庫）と「開かれた墓」（最初の三人の修道院長が埋葬されていた）。章ホールから右へ階段を上って上階の見学へ。</p>

<p>9 I 上階  修道視のドルミトリウム（就寝ホール）</p>
<p>10 I 1階  修道院博物館（修士のドルミトリウムから到達）</p>
<p>修道院史とシトー会のドキュメント。かつての修道院厨の上にあるロマネスク様式の暖房室には1180年頃のドイツ語圏で最古の現存するシトー会教会のガラス窓（グリザイコ）が展示されている。</p>
<p>11 I 1階  修士レフェクトリウム（食堂）</p>
<p>修道院厨を通して修士食堂に入る。1186年の建築。1720年取り壊す。残っているのはロマネスク様式の正面入り口。現在の部屋は1720年から1724年の間に新しい食堂として出来た。「物語る紋章」の付いたルネッサンス様式の戸棚は17世紀初頭のもの。華麗な化粧漆喰を施し、立派な、鏡板張りのホールでは現在ヘッセン州政府のレセプションなどが催される。個人や団体も催し物に借りられる。</p>
<p>12 I  井戸屋形</p>
<p>1186年以前のロマネスク様式回廊の遺物として土台のみが残っている。食事の前に修士は食堂前のここで手を洗った。</p>
<p>13 I 1階  フラターナイ（カビネット地下室）/出口</p>
<p>早期ゴシック様式の2身廊、交差ヴォールトのホールは1240/1250年頃にフラターナイ（修士ホール）、修士の談話と仕事部屋として建てられた。後に「カビネット」として特に価値のあるワインの貯蔵に使われた。</p>
<p>14 I  ホスピタル（1220/30年頃、ドイツで唯一残存している中世の修道院ホスピタル。ワインの試飲と特別な行事の時のみ見られる。）</p>
<p>訪問者の巡回は立派な川石床を持つ中世後期の「氷室」を北側から通ってナッサウ時代（1830年）に歴史的なワイン地下倉として造られた、ヘッセン州立ブドウ園の「ワイン宝庫」を一瞥できる。</p>

<p>15 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>16 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>17 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>18 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>19 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>20 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>21 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>22 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>23 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>24 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>25 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>26 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>27 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>28 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>29 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>30 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>31 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>32 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>33 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>34 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>35 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>36 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>37 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>38 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>39 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>40 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>41 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>42 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>43 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>44 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>45 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>

<p>46 I 1階  信者修士食堂</p>
<p>1200年頃の建築。18世紀に上1階を増築後に同世紀と次世紀に静荷重の面から支柱の被覆が必要となった。2身廊交差ヴォールトのホールはそれ以来前よりも暗くて重い印象を与える。エーバーバッハのシトー会のワイン文化の証拠としてここに歴史的な12台のブドウ圧搾機を展示。最古のは1668年、最も新しいのは1801年のもの。このブドウ圧搾機を詳しく説明した模型が修道院博物館にある。2011年春から断片的に残っている歴史的な石工の作品を展示。</p>